白銀南中

生徒が主体的に学習に取り組む授業の工夫

～生徒が自ら問いをもてる課題設定の工夫をとおして～

（３年計画の２年次）

校長　　沼 上　進 一

１　研究主題について

本校は昨年度「生徒が主体的に学習に取り組む授業」とはどうあるべきかを主題として掲げ、「必要感をもって問題解決に取り組ませる指導をとおして」を副題として設定し、研究を行った。授業におけるＩＣＴの活用や、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、本校職員が講師となり、主題に迫るための研究機会を設けた。「授業見せ合い週間」では、全教員が互いに授業を見せ合うことで、教科を越えた学び合いの機会が得られた。

年度末に行ったアンケートでは、職員の 70.6％が研究主題に対して高評価であった。自由記述では、「生徒が興味をもてるような課題提示の仕方や文言の工夫ができた」、「ＩＣＴ・１人１台端末・視覚的教材の積極的な活用ができた」、「学習の見通しと振り返りの習慣づけができた」、「教え合いや学び合いの時間を設定することで生徒の意欲が向上した」、「場面設定や学習形態を工夫することで活発な活動につながった」、などの回答が寄せられた。副題については、「理由を考えさせると意見が活発に出た」、「目的・場面・状況を必ず設定して言語活動を行ったことで、主体的な生徒の活動につながった」、などの回答があった。一方、「必要感」の捉えについて教員間で共有できていなかったために、具体的な実践まで到達できなかったという反省点もあり、主題に比べて評価が低い結果となったと考えられる。

そこで今年度は、授業における「課題設定の工夫」に重点を置き、副題を「生徒が自ら問いをもてる課題設定の工夫をとおして」として授業改善に取り組む。生徒が自ら「問い」をもてるような課題設定や、導入部分におけるはたらきかけの工夫を行うことで、生徒の「主体的な学び」の実現を目指す。「生徒の学びを支援する」という視点をもち、指導の仕方を刷新していくことで、研究主題に迫っていきたいと考える。

２　研究のねらい

授業の中で生徒が自ら問いをもち、主体的に学習に取り組むためには、生徒の学ぶ意欲を喚起するような課題提示の仕方やそこに至るまでの導入におけるはたらきかけが重要である。そのため、生徒を主語にした指導観をもつことや学びの自律を促すための支援を行うことなど、教員の意識改革が必要になる。したがって、各教科及び領域において授業における課題設定とそこに至るまでの導入におけるはたらきかけについて、実践をとおした研究を行う。

３　研究仮説

各教科及び領域において、授業の中で生徒が自ら問いをもつような課題設定を工夫することで、学びに対する興味・関心を喚起し、主体的に学ぼうとする態度を育てることができる。

４　研究内容

以下の視点に基づいた授業研究を複数回実施することにより、教師の指導観の再考や授業力の向上を図る。

(1)生徒が自ら問いをもてるような、課題設定の工夫。
(2)生徒に問いの意識が芽生えるような「導入におけるはたらきかけ」の工夫。

５　研究の経過

(1)研究仮説に基づく授業研究等

月	日	内　　容
４	３	全体会（研究についての共通理解）
６	１	小中ジョイントスクール推進事業　小学校職員による、本校の授業参観
９	２７	計画訪問指導案検討会
１１	１	見せ合い授業週間（～11/15）
１１	９	小中ジョイントスクール推進事業　本校職員による、小学校の授業参観
１１	１６	見せ合い授業の振り返り
１１	２４	領域・教科部会（今年度の成果と課題）
１	１８	全体会（成果と課題、次年度の研究主題について）

(2)一般研修

月	日	内容・講師・概要等
４	２６	配慮を要する生徒に関する情報交換・共通理解
６	１２	「『みんなの学校』を作るために自分ができること」 講師　大阪市立大空小学校　元校長　木村　泰子氏
７	５	「生徒自ら問いをもち、主体的な学びを実現するための手立て」 講師　葛西　良子
７	２６	「特別な支援を要する生徒への対応について」講師　第二中学校　佐藤佳子氏
１	１０	「個と集団の理解を活かした学級経営」（ＱＵ分析） 講師　こども支援センター　学校体制支援アドバイザー　　原　寿氏

６　研究の成果

(1) 研究主題についてアンケートを実施したところ、職員の８８％が高評価であった。具体的には、「時間の使い方や課題解決方法などを生徒自身に決めさせる時間を全授業最大限とった」（英語）、「子どもたちで解決できる場と時間を与えること、教えすぎないことを意識した」（数学）、「問いに対して課題を解決するための手立てをいくつか準備し、個人やグループで取り組めるように工夫した」（国語）などの生徒の主体性を尊重する取組についての回答や、「『自己調整シート』を活用し、授業中に理解が不十分なことを家庭学習などで取り組めるように促した」、「毎時間の終わりや定期試験ごとに振り返りシートを活用し、自分の学びを振り返られる工夫をした」（どちらも英語）などの生徒の自己調整力を育成する取組についての回答があり、各教科で活発な取組が行われたことが見て取れた。

(2) 副題については、８０％の職員が高評価であった。「生徒が問いをもてるような材料・用具を選択させ、作ってみたいと思うような課題の文言選びをするようにした」（美術）、「導入部で既習事項とのズレに着目させ、解決方法を考えさせた」（数学）などの回答があり、教材や課題提示の工夫などの導入部におけるはたらきかけに注力した教員が多かった。また、生徒に対して行った「問いをもって授業を受けることができたか」というアンケート結果も８５％が高評価だった。

７　研究の課題

今年度は各教科において積極的な取組が行われた一方で、それらの手立てが生徒の主体性にどう結びついていくのかについては、今後さらに検証の必要があると考える。また、教員からは「生徒一人一人に問いをもたせること」や「個に応じた授業内容を工夫すること」の難しさが課題として挙げられた。来年度は、「見通しを立てられる力」の育成に重点を置き、生徒一人一人が自分に合った学習計画の立て方やその振り返り方を工夫し、より主体的に自分の学び方を調整できるような学習支援の場面設定や授業の在り方を研究していきたい。　　（記入者　葛西　良子）